

「安全・安心な農産物を消費者へ」

鈴木 千佳子 (31) 農業法人従業員から独立自営
(四国中央市)



1 就農の動機・理由

農家に生まれ育ち、幼いころから祖父の農業を手伝っていたこともあり、農業に興味を持ち、将来は農業に従事したいとの思いがあった。大学卒業後6年間大手流通会社や四国中央市役所に勤務したのち、平成31年4月から令和3年3月までの2年間、「農地保有適格法人 株式会社 JA ファームうま」で野菜（施設・露地）、花木（露地）、水稻等の栽培・販売等について研修を実施し、令和3年7月から自ら農業経営を開始した。

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (令和3年)	現在の経営 (令和3年)	将来の経営 (令和7年)
労働力	女2人(本人、母) 男1人(父)	女2人(本人、母) 男1人(父)	女1人(本人、母) 男1人(父)
経営耕地	畑 16a	畑 21a	畑 100a
経営内容	キャバツ 4a ナス 8a 黒大豆 4a	キャバツ 4a ナス 8a 黒大豆 4a 花木 5a	サトイモ 40a キャバツ 10a トマト 10a ナス 10a 早生温州 15a 甘平 10a 花木 5a

○農業用施設
農業用倉庫

1棟 198㎡

○主要農業機械

トラクター 1台
軽トラック 1台
動力噴霧機 1台

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 愛媛県四国中央市
職歴 民間企業ほか
JAファームうま
就農年月 令和3年7月

(2) 就農時の思い

露地野菜類を中心に農業経営を開始し、出荷先はJA、産直市、学校給食等、多方面に出荷するようにしている。

安心安全な農産物生産を心がけ、将来は野菜ソムリエの資格を取り、野菜の美味しさ、地産地消の大切さを消費者に伝えていきたいと考えている。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

就農前はJAファームうまの職員やJAうまの営農指導員、就農後はJAうまの営農指導員等から農地条件、品種や作物の状態に合わせた細かな栽培管理等を教わった。

また、認定新規就農者や、農業次世代人材投資事業（経営開始型）の申請に当たり四国中央市農業振興課や四国中央農業指導班の指導を受けた。

(2) 資金の準備

農業用倉庫、トラクター、軽トラック、動力噴霧器等は父親から無償で借り受けたため、就農時に資金は必要なかった。

しかし、技術・経験の不足や収入

が少ないことが考えられるため、早期に経営を軌道に乗せる目的で、農業次世代人材投資事業（経営開始型）の交付を受ける予定である。

(3) 農地・住宅の確保

父親が賃貸借していた農地の一部を借り受けて経営を開始した。
また、両親と同居している。

5 農業経営の特徴

地元の JA や産直市・学校給食への販売が中心で、安全・安心な野菜を消費者に届けるため、適期防除に努めることで農薬の使用回数が最小限になるよう努力している。

四国中央市学校給食部会に所属し、定期的に学校給食に野菜を出荷している。

6 これからの夢

今後、四国中央市の特産であるサトイモや施設トマトを中心に、柑橘類（早生温州、甘平等）、花木（ユーカリ、ピットスポラム等）栽培を行い、現在よりも規模拡大を行いたい。

また、安心安全な農産物生産を心がけ、将来は野菜ソムリエの資格を取り野菜の美味しさ、地産地消の大切さを消費者に伝えていきたい。

7 成功したキーポイント

まだ就農したばかりなので、成功したとは思っていないが、農業次世代人材投資事業（経営開始型）の受給により収入の不足分を補う見込みができたことは良かった。また、JA ファームうまで2年間農業に関する技術等を習得することができ、その時に JA うまの指導員や農家等、たくさんの人と知り合うことができた。

8 就農を目指す方へのアドバイス

農業を行うためには、いろいろな面で地域との関係が出てくるため、できるだけ、地域の人と交流することに心がけてください。

また、地域活動を通じて地域の人やJA、関係機関との人脈を作ることも大切です。

○指導機関からのひとこと

鈴木さんは、農業経営者としての意識が高く、真剣に農業に取り組む姿勢は地域の農家や関係機関から信頼も得ています。

今後は地域農業を支えるリーダーとして成長されることを期待しています。

執筆機関

東予地方局農業振興課地域農業育成室

四国中央農業指導班

電話番号 0896-23-2394



鈴木さんが育てたナス